

日越農業協力中長期ビジョン(概要)

1. 中長期ビジョン策定の意義

- ベトナム農業(人口の約7割、GDPの約2割)の発展は、ベトナムにおける農村地域の生活向上と国土の均衡ある発展に不可欠であり、今後、生産から加工、流通、消費に至るフードバリューチェーンの構築が重要。
- 他方、農業の様態は地域によって多様であるため、全国画一ではなく地域ごとの課題に応じた対応が必要。また、農業技術に限らず社会経済制度全体も含めた分野横断的な課題への対応や、経済協力と民間投資の連携も必要。
- 「日越農業協力中長期ビジョン」は、ベトナム農業の中長期的な課題解決を目的に、モデル地域における今後5年間(2015～2019)の行動計画等について策定。日越双方による計画の着実な実施が、ベトナム農業の包括的発展に大きく寄与。

2. 主な行動計画(2015年～2019年)

① 生産性・付加価値の向上

■モデル地域(ゲアン省)

- ・ 老朽化した灌漑施設の改修、安全野菜の生産体制の構築等により、農業生産性・付加価値を向上
- ・ 農業機械化や高品質飼料作物の生産等を進展 等

■全国横断的な取組

- ・ UPOV91年条約に基づく植物品種保護体制の整備
- ・ 植物遺伝子資源の特性解明や越境性感染症に関する日越共同研究を実施
- ・ 日本からの水産政策アドバイザーの派遣
- ・ 漁業監視を目的とした日本からの中古船供与 等

② 食品加工・商品開発

■モデル地域(ラムドン省)

- ・ 国内外の需要に応じた高付加価値の農作物の生産
- ・ 食品加工施設や集出荷選別貯蔵施設の設置等
- ・ 農業と観光の結びつけや農業生産団地の設立に向けた検討・実施。農畜産物の品質保持のための流通体制の整備 等



③ 流通改善・コールドチェーン

■モデル地域(ハノイ・ホーチミン等大都市近郊)

- ・ 冷蔵・冷凍倉庫の建設や低温流通体制構築に向けた民間投資の促進
- ・ 食品安全法に基づく食品衛生管理の法制度やその運用の透明性確保 等

④ 分野横断的な取組

■気候変動への配慮(モデル地域:メコンデルタ)

- ・ 塩水遡上を抑制するためのインフラ整備について検討
- ・ 広大な稲作地帯から排出される温室効果ガス抑制に係る日越共同研究を実施 等

■高度人材の育成(カントー大学等)

- ・ 寄付講座を開設し、日本の食関連企業から講師を派遣
- ・ カントー大学等の教育・研究能力向上やベトナム国立畜産研究所等における在来豚資源の遺伝子バンク設立 等